クォータリーレポート

気仙沼・南三陸だより

第１０号　平成２６年９月
発行：気仙沼地方振興事務所

気仙沼圏域地域包括ケアシステム研修会～気仙沼市・南三陸町でできる地域包括ケアシステムを考える～が開催されました。

（気仙沼保健福祉事務所）

6月27日に「気仙沼圏域地域包括ケアシステム研修会」を開催しました。今回の研修会は，管内の医療・介護・行政等の関係者を対象として実施したところ，166名にのぼる参加者がありました。

「住民主体の地域包括ケア～気仙沼市・南三陸町でできる地域包括ケアシステムを考える～」をテーマに，立川市南部西ふじみ地域包括支援センターのセンター長である山本繁樹先生から御講演をいただきました。その後，気仙沼市・南三陸町で活動されている気仙沼市地域包括支援センターの尾形直子氏，気仙沼市南部地域包括支援センターの池田良子氏，気仙沼市北部地域包括支援センターの小野寺保代氏，南三陸町地域包括支援センターの竹内裕一氏，ケアマネジャー協会気仙沼支部の小松治氏の5名から実践報告をいただきました。

今回の研修では，地域包括ケアの重要な役割を担う関係者が地域包括ケアシステムや地域ケア会議について共に学ぶ機会を設けたことで，各関係者が果たすべき役割を考えるきっかけづくりとなりました。今後も，この地域でできる地域包括ケアシステムの構築へ向け，取組を継続していきます。

（ケアシステム研修会の様子）

松くい虫防除事業(地上散布)を実施しました

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

松くい虫被害とは，マツノマダラカミキリというカミキリムシが松の枝葉を食べることにより，共生関係にあるマツノザイセンチュウが，食害した穴から木の内部に侵入し，健全な松の木を枯らす被害のことです。

（マツノマダラカミキリ）

（マツノザイセンチュウ）

海岸部の松林は，塩害や飛砂を防ぐ働きをするほか，優れた自然景観の形成にも役立っていることから，松林保護のため松くい虫防除事業が行われています。地上散布は，マツノマダラカミキリの食害を防ぐため，羽化脱出する時期にあわせて薬剤を散布するものです。

気仙沼市内では，７月７日と８日の朝５時から，

８か所，約３２ヘクタールの松林で地上散布を実施しました。

県では，地域の重要な松林を守るため，今後とも防除事業を行い，被害のまん延防止に努めます。

（薬剤散布車による散布状況）

「気仙沼いちご」が復興します

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

気仙沼市階上地区では，夏季冷涼・冬季温暖な気候を生かしたいちごの生産が昭和40年代に始まり，気仙沼市場を中心に出荷され，「気仙沼いちご」として親しまれていましたが，東日本大震災の津波により，階上いちご部会の生産施設の9割が全壊する被害を受けました。

（鉄骨ハウスが立ち並びました）

「気仙沼いちご」ブランドの復活を目指し，平成23年度に階上いちご復興生産組合，平成25年度には階上いちご第2復興生産組合がそれぞれ組織（両組合とも構成員3名）され，低コスト耐候性ハウスと高設栽培システムを導入し栽培を再開しました。平成26年における階上いちご部会の栽培面積は2ヘクタールほどで，震災前の約66％まで回復しています。

県や関係機関では，単なる復旧にとどまらず，震災前よりも生産性の高い施設や新しい栽培技術を導入するため支援を行っています。

（養液栽培による【気仙沼いちご】）

ねぎ栽培先進地視察研修会を開催しました

（本吉農業改良センター）

普及センターは，現在，JA南三陸とともに，収益性の高い作物として，業務用ねぎの栽培を推進しています。高品質なねぎの生産拡大を図るため，6月25日，気仙沼市・南三陸町のほ場整備事業実行委員，ねぎ栽培に取組む農業者や関係機関担当者を対象に，栽培先進地の東松島市で視察研修会を開催しました。

ほ場視察と共に，長ねぎ生産者の方と石巻農業改良普及センターの職員から，『ねぎの周年生産技術』と『石巻地域における長ねぎ生産』について講演いただきました。

（ほ場視察の様子）

参加者の多くは栽培初心者でしたが，土づくりや施肥管理，夏の病害虫防除について活発な意見交換が行われ，先進地の栽培技術を学ぶ有意義な研修会となりました。

普及センターは，気仙沼市・南三陸町でのねぎ生

産拡大に向け，生産技術と組織作りの両面から関係機関一体となって支援していきます。

農地復旧ほ場整備地区において営農体制が整いつつあります

（本吉農業改良センター）

現在，農地復旧の一環で，ほ場整備事業が管内10地区で進められており，このうち8地区が平成27年4月，2地区が平成28年4月の営農再開を目指しています。

各地区とも生産費の低減を図るために，農地集積や農業機械の共同利用を進め，従来の個別経営から転換して新たな営農体制の構築に取り組んでいるところです。

具体的には，地権者が参加して「農用地利用改善組合」を設立し，「集落営農組織」等の担い手組織に作業や耕作を委託する体制づくりを進めています。

先行する8地区では，全地区で平成26年7月までに地権者組織である「農用地利用改善組合」が設立されました。また担い手組織は地区の状況に応じて集落営農組織等が設立されつつあります。

営農再開に向けて今後は，農地・農業機械利用のルール作りや組織内での役割分担，新規導入作物の技術指導などに取り組んでいきます。

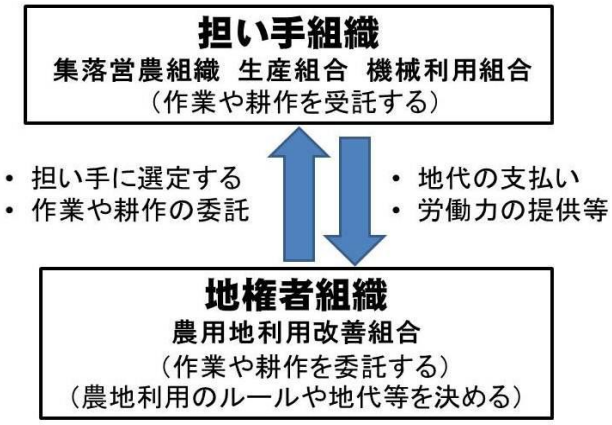
○担い手組織の区分

・集落営農組織：地区を一つの農場として管理する組織

・生産組合：共同作業を行う組織

・機械利用組合：機械の共同利用を行う組織

ほ場整備地区で構築する営農体制のイメージ



（集落営農組合設立総会の風景）

かつおの水揚げが行われています

（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

気仙沼市魚市場では，かつおの水揚げが盛んに行われています。今年のかつおの初水揚げは，6月7日で昨年より15日遅れてのスタートとなりました。8月上旬までの累計は数量で10,595t，金額で31億8千万円となっています。今年は，漁期開始前に不漁が予測されていたことや漁場の形成が遅くれたことなどから，数量，金額の減少が懸念されていました。しかし，7月に入り，まき網によるかつおの水揚げが好調となり，8月上旬まで，数量で前年同期比90％，金額では前年同期比98％まで回復しています。東日本大震災により多くの施設が壊滅的な被害を受けましたが，多くの水産関係者の努力により，気仙沼市魚市場では昨年まで生鮮かつおの水揚げが17年連続日本一の座を守りました。これからは，たっぷりと脂ののったおいしい戻りかつおが水揚げされます。生鮮かつおの水揚げ18年連続日本一に向けて，今後の水揚げも期待されるところです。

（水揚げされたかつお）

（かつおの選別）

田んぼの生き物観察会がありました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

7月3日に南三陸町入谷地区で，入谷小学校の3，4年生を対象にした田んぼの生き物観察会が開催されました。

この観察会は，南三陸米地産地消推進協議会が開催したもので，水田やその周辺で生息している生き物を観察し，田んぼと生き物との関係や，地元で作られるお米の自然環境と環境保全の大切さを学んでもらうため行われたものです。

（田んぼの生き物観察会の様子）

参加した児童達は，水田周辺の水路等を元気よく網ですくって，カエルやオタマジャクシ，イモリなどを採集しました。その後，講師の先生方から，採集した生き物の生態や見分け方などの話があり，児童達は真剣な表情で聞き入っていました。

「気仙沼ふかひれ丼」が復活しました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

7月6日に気仙沼「海の市」で「気仙沼ふかひれ丼」復活発表会が行われました。

気仙沼寿司組合では，平成22年から高級食材のフカヒレをたっぷり使った「究極のふかひれ丼」を販売していましたが，提供店の多くが東日本大震災で被災したことから販売を中止していました。今回，この「究極のふかひれ丼」が「気仙沼ふかひれ丼」と名を改め，震災から3年4か月ぶりに復活しました。カツオとコンブの和風だしで味付けされたフカヒレの姿煮は，震災前の約1.5倍で丼を覆うほどの大きさ。この特大フカヒレは直径20センチメートルはある最高級のヨシキリザメの尾びれを使用しています。サメ肉を使ったつみれ汁付きの価格は5,000円から6,000円台で，組合に加盟する14店舗が提供しています。サメの水揚げ日本一を誇る気仙沼市のフカヒレを味わいにぜひお越しください。

【問い合わせ】
気仙沼寿司組合
（宮城県寿司商生活衛生業組合気仙沼支部）
電話:0226－23－1331

（気仙沼ふかひれ丼）

（「気仙沼ふかひれ丼」復活発表会の様子）

気仙沼「海の市」がグランドオープンしました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

東日本大震災で被災した気仙沼市の観光施設，気仙沼「海の市」が震災から3年4か月ぶりに全面復旧を終え，7月19日に本格的な営業を再開しました。

「海の市」は，震災前，年間100万人の来場者で賑わった観光施設です。今年4月に施設2階と3階の復旧を終え，「シャークミュージアム」と「気仙沼市観光サービスセンター」が運営を開始，その後，1階で飲食店1店舗が営業を再開していました。

今回は，1階と2階の店舗スペースで地元の海産物などを販売する店舗が8店舗，海鮮丼やお寿司など気仙沼の海の幸を提供する飲食店が3店舗，合計11店舗が営業を再開し，グランドオープンとなりました。

今後，気仙沼「海の市」は気仙沼市の水産と観光の復興に大きな役割を果たすことが期待されています。

ぜひ，皆様もグランドオープンした「海の市」に出かけてみてはいかがでしょうか。

（海産物等の販売コーナー）

（飲食店コーナー）

気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014開催中です

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

7月26日から9月28日までの約2か月間，気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014を開催しています。

このスタンプラリーは，今年の4月から6月まで開催した「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン2014」後の気仙沼市と南三陸町への観光客の誘客及び域内流動の促進を図るため実施しているもので，今回で3回目の開催となります。

（気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014応募用紙）

観光施設や仮設商店街など12か所にスタンプラリーの応募用紙とスタンプを設置しています。応募用紙を入手して，3か所でスタンプを押印し，郵送するだけでスタンプラリーに参加することができます。応募者の中から抽選で50名に気仙沼市又は南三陸町の特産品をプレゼントします。

詳しくは，こちらのホームページを御覧下さい。
（http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-e/）

この気仙沼・南三陸だよりをご覧になった皆様，ぜひ，お知り合いの方にスタンプラリーへの参加をお声がけください。

第63回気仙沼みなとまつりが開催されました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

８月２日と３日の２日間，震災からの復興を願い，「第63回気仙沼みなとまつり」が開催され，今年も多くの来場者で賑わいました。

初日は，田中前大通りで街頭パレードや「はまらいんや踊り」が行われました。街頭パレードでは，14団体が演奏や手踊りなどで会場を大いに盛り上げました。続いて行われた「はまらいんや踊り」では，バンドの生演奏とともに市内の中高生や職場のグループなど約3,100人が参加し，各々趣向を凝らした踊りを披露しました。

（街頭パレードの様子）

２日目は，太鼓団体による「打ちばやし大競演」とともに，ねぶたを積んだ船で太鼓を演奏する「海上うんづら」が運航しました。「海上うんづら」は昨年，復旧工事の影響により陸上での開催となりましたが，今年は海上での演奏を復活させました。飾り付けられた七福神の張り子が光を放ち，演奏に合わせながら湾内を周回しました。また，同会場ではサンマ船のライトアップも行われ，祭りのフィナーレとして，気仙沼湾内の海上から約2,400発の鎮魂の願いを込めた花火が打ち上げられました。

（海上うんづら）

高校生を対象とした企業見学会が開催されました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

８月８日，気仙沼市内において，ハローワーク気仙沼との共催による高校生を対象とした企業見学会を開催しました。この見学会は，従来は高校2年生を対象に春休みに実施していましたが，生産施設等の復旧の本格化及び雇用情勢等の変化に伴い，地元企業においては，人材の確保が喫緊の課題となっていることから，今回，新たに高校3年生を対象に実施したものです。

当日は，宮城県本吉響高等学校3年生12人が参加し，気仙沼市内の水産加工会社など6社を見学しました。参加した生徒達は，始めに企業から工場や就労内容に関する説明を受け，その後，施設を見学しました。

見学会終了後，参加生徒にアンケートを行ったところ，約8割の生徒から「役立つ情報が得られた」との回答が得られたほか，「就職の具体的なイメージがつかめた」，「地元の企業に対して興味がわいた」等の感想も寄せられるなど，今後の生徒の就職活動や地元企業の採用活動を行う上で，有意義な見学会になりました。

（企業からの説明を熱心に聞く参加生徒）